

厚生連新潟医療センター、救急外来を拡張 「患者総合サポートセンター」開設、救急車年間5000台受け入れを目指す

2024/3/26 6:00

新潟市内の救急医療体制の強化に取り組むJA新潟県厚生連新潟医療センター（同市西区）は3月25日、救急外来の拡張工事が完了し、地域医療と患者をつなぐ「患者総合サポートセンター」を開設した。同日には開設セレモニーが院内で行われ、県厚生連の塚田芳久・代表理事理事長は「救急車の受け入れ拡大に向け、センターを軸に周辺病院との連携を強化したい」と決意を述べた。



救急車の受け入れを増やすために拡張された新潟医療センターの救急外来エリア＝25日、新潟市西区小針3

医療センターは増加する救急患者に対応するため、首都圏から4人の救急医を確保。ハード面では救急外来エリアの拡張工事を進め、ベッド数、面積ともに倍増させた。

さらに、他の病院や診療所への患者の「逆紹介」の調整役などを担うサポートセンターを新設。急性期以後を診る医療機関と役割分担を進め、安定した救急医療体制の構築を目指す。

新潟市では昨年、住民の高齢化や医師不足、さらには4月から始まる「医師の働き方改革」などを背景に救急医療の逼（ひっ）迫（ばく）が問題化。県医師会主導で新たな救急拠点の公募が行われ、済生会新潟病院（同市西区）が選ばれた。

拠点に選定されなかった新潟医療センターも救急車受け入れ増を進めており、2023年度は22年度比約1500台増の約3700台（見込み）の救急車を受け入れる。24年度は5千台の受け入れを目指す。

吉澤弘久院長は「（医師業務の一部を看護師らに代行させる）タスクシフトが進み、サポートセンターは働き方改革にも大きく資するものと期待する」と話した。